

変わる政策決定

4

今年五月の宮崎市議会の議長選。保守系の二会派を中心に激しい攻防戦が繰り広げられた。投票前に休会が乱発され、情報が交錯する中、交渉役議員が調整を進めるさまは、二年に一回の恒例。議会の「閉ざされた世界」を象徴する一幕だ。

交渉役を務めたある議員は、議長選前に態度を保留していた議員宅に向いた。情報量が格段に多く、執行部への「口利き」も多い議長ポストは魅力。何もしなければ向こうに負ける。(常任委員長などの)ポストはないない尽くしになってしまふ。説得する際、議長、副議長に次ぐ議会三役である監査委員を、お土産にするのも多いという。

同市の五十代の主婦は「傍聴に行ってもやじを飛ばしたり、居眠りをしたりする議員

がいて『もう少しはしっかりして』と言いたくなる」とありき顔。「開かれた議会」にして市民の目にさらされることは重要だろう」と訴える。

■ □ 要望にこたえ、県内でも議

議会への関心

行、一般質問通告書の事前公開など、さまざまに取り組みを始めた。同特別委員長を務めた甲斐勝吉前議長は「特にテレビ中継によって『市民に見られている』意識が芽生えた。一

ネット利用しアピール

会活性化に向けた動きは見られる。日南市議会のHP(ホームページ)での会議録閲覧、都城市議会がいち早く取り組んだ本会議のケーブルテレビ中継、小林市議会の休日議会などアピールに懸命だ。

延岡市議会は二〇〇一年度から本格的に本会議のケーブルテレビ中継、議会便りの発

行、一般質問通告書の事前公開など、さまざまに取り組みを始めた。同特別委員長を務めた甲斐勝吉前議長は「特にテレビ中継によって『市民に見られている』意識が芽生えた。一

宮崎ルサス

「分権と自治」

新時代 第4部

一般質問の質も向上し、政策論的なものになってきた」と評

「分権と自治」



宮崎市議会の傍聴規則。他県では規制から歓迎へ転換した先進事例もある

ご意見をお寄せください
houdou@the-miyanichi.co.jp